



# 関東中央病院 Memories 思い出のアルバム No.3

このシリーズは、平成5年（1993年）1月から、「緑のひろば」で12回にわたって連載された記事の再掲載です。

開院当時、世田谷通りはジャリ道でした。乾燥したときは砂埃が、ラリー車が砂漠を疾走するときのように巻き上がりました。行き交うバスはボンネットのある型で、1時間に1本程度の運行回数でした。終バスはなんと午後7時ごろだったようです。

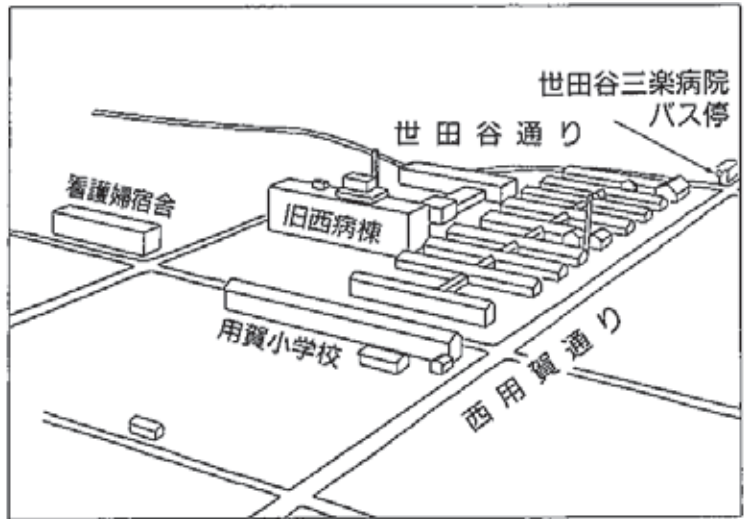
世田谷通りが現在のように真っ直ぐに整備されたのは、東京オリンピックのあった昭和39年頃です。それまでは現在のキグナスGSから新寿司<sup>※</sup>にかけてのカーブした道路がメインルートでした。車が曲がりきれずカーブ脇の田んぼによく転落したそうです。

現在でも当院の回りには商店の密集したところはありませんが、開院当時、商店は『棚網』（現在の宇山バス停前の長みせ）だけでした。宴会をする時、酒は『棚網』で購入しましたが、「肴」はカスミ網で捕まえた野鳥を焼鳥にしたという証言があります。

※「新寿司」：ファミレス「フラカツ」の向いにあった。



▲昭和30年以前、まだ世田谷三楽病院です。



◀昭和34年2月ごろ世田谷通りが現在のように整備されていないことがわかります。

◆次回は平成25年2月号に掲載します。